

黄銅棒大手

大木伸銅の経営戦略

建築向けを中心に自動車や電子など幅広い部品に用いられる黄銅棒。需要環境が改善する中、大手の一角を占める大木伸銅工業（本社・東京都板橋区）では品質改善に向けた取り組みをさらに推進。併せて営業体制の最適化を進める。今後の戦略について大木宗治社長に聞いた。
(古瀬 唯)

黄銅棒の市場は連のニーズも増えた。改善基調にありま

「黄銅棒を中心とする備能力には余裕がある。当社の1〜5月の生産量は1万4千ト、生産能力ではフルに近弱。前年同期から約7%は増えている。住宅関連の需要は落ち込まず伸びたほか、設備関

大木 宗治社長に聞く



高品質追求、海外品と差別化

製販統合しスリム化

もしれない。収益は銅社のような素材メーカーに比べて低い。相場によるところが大きい。経営利益は5月までの月次ベースでは昨年の方が好調だ。特に注力したい製品群や取り組みは、「品質力をより一層高め海外製品との差別化に注力する。併せて鉛レスや耐脱亜鉛黄銅

「目先の状況は不透明感もあるが、下期は足元からさらに大きく増えることはない。住宅関連の需

「日本のモノづくり研究開発にさらに力を入